

武四郎の天神信仰

明治政府による新しい国づくりが急ピッチで進められるなか、不平士族の反乱が相次ぐ一方で、学制公布・学校令公布と近代教育制度の整備が進められていたころ、日本列島各地を旅した松浦武四郎(1818~1888)は、古くから国家安寧実現のために慰撫の対象とされた神、また学問の神様とされてきた、菅原道真の怨霊神「天神」を信仰し、次のような際立った天神信仰を各地で実践しました。

明治8年(1875)に北野天満宮に直径約1m、重さ約120kgの、蝦夷地(現在の北海道など)の地図や和歌が鑄出された大きな銅鏡を奉納したこと(を皮切りに、同9年(1876)に上野東照宮、同12年(1879)に大阪天満宮、同14年(1881)に金峯山寺蔵王堂、同15年(1882)に太宰府天満宮と、京都の職人金森弥輔に依頼して作ってもらった巨大な神鏡を、多くの人びとの協力を得て次々と奉納しています。さらに、道真にゆかりの深い25カ所の天満宮を「聖跡二十五霊社」と定め、各宮に銅製の小神鏡を奉納し、境内に石標を立てていきました。小神鏡は直径約30cmで、菓子ゴフルで知られる風月堂や各地の有力者の賛同を得て奉納し、石標には有名な書家などに揮毫を頼み、正面に「聖跡第〇番 〇〇天満宮 寶前 〇〇〇〇」、側面に「発起人 東京 松浦武四郎」などと刻みました。小神鏡の奉納は同18年(1885)1月頃にはすべて終えたと考えられ、翌同19年(1886)には、菅原道真の事績とゆかりのある25社を紹介した絵すごろく「聖跡二十五霊社順拝双六」を出版しています。

なぜ武四郎はそれほどまでに篤く天神を信仰し、様々ななかたちの奉納と著述活動に熱心に取り組んだのでしょうか。今回の企画展示では謎に包まれた武四郎の天神信仰の歩みを紹介します。



武四郎まつりマスコットキャラクター たけちゃん



大阪天満宮奉納神鏡背面拓本(明治12年(1879))



聖跡二十五霊社順拝双六
明治19年(1886)刊

背景-北野天満宮奉納神鏡背面拓本(明治8年(1875))

武四郎講座

毎月第2日曜日午前10時〜好評開催中!

会場 当館 多目的室 定員 60名
申込方法 事前申込不要 先着順に受付 参加費 110円 (資料代)

9月13日(日) 午前10時~11時 ※入館料をお支払いの方は無料。

「武四郎の大神鏡奉納」 講師:山本 命 (当館 館長)

10月11日(日) 午前10時~11時

「お雇人 武四郎」 講師:世古 詩央里 (当館 学芸員)

11月8日(日) 午前10時~11時

「武四郎の天神信仰」 講師:佐藤 圭祐 (当館 学芸員)

授当学芸員による
ギャラリー
トーク

日時:2026年9月13日(日)・10月11日(日)・
11月8日(日) いずれも午前11時~12時
日時:企画展示室 ※予約不要、入館料のみで参加可。

ご利用案内

開館時間 午前9時00分から午後4時30分まで

休館日 毎週月曜日・11月4日(木)
9月21日(月・祝)は開館し、24日(木)は休館。
10月12日(月・祝)は開館し、13日(火)は休館。

入館料 19歳以上...360円【230円】
6歳以上18歳以下...230円【120円】
就学前の子どもは無料、お得な年間パスポートあり。
※松浦武四郎誕生地は18歳以下無料
※【】内は20名以上の団体料金。

交通案内

<電車・バスで>

近鉄
・【伊勢中川駅東口】からタクシーで約7分
三雲地域コミュニティバス「たけちゃんハー
トバス」(9人乗り)を運行
バス停【松浦武四郎記念館】下車すぐ。

JR・近鉄

・【津駅前(東口)】から三交バス「天白」行
き、バス停【小野江】下車
国道23号 小野江町交差点を西へ徒歩
約13分

<お車で>

※無料駐車場完備(乗用車50台まで駐車可能)。
・伊勢自動車道
【久居IC】・【志埴野IC】から車で各15分
・国道23号
【小野江町交差点】を西へ約1km
・中勢バイパス(国道23号)
【嬉野新庄ランプ】から車で3分



詳しくはHPのカレンダーにて



11月14日(土)・15日(日)は
関西文化の日で無料開館!